

一 般 質 問 通 告 書



令和6年6月4日

伊達市議会議長 様

伊達市議会議員 佐藤 匡則

(会派名 伊達みらい)

第2回伊達市議会定例会において下記のとおり一般質問をしたいので、伊達市議会会議規則第62条の規定により、質問の通告をいたします。

提出方法	受付月日	令和6年6月4日	受付順位	1
電子メール	受付時刻	8時50分	質問順位	1

1 脱炭素社会について

令和5年10月の産業民生常任委員会での先進地視察で「島根県奥出雲町」を訪れました。奥出雲町は1300年前に編纂された「出雲国風土期」に良質な鉄の産地として記されております。

先人たちの営みは、たたら製鉄の砂鉄採取で切り出された山々は荒廃することなく豊潤な棚田に姿を変えてきたこと。どこかで止まってしまうものではなく、すべてが循環しているという部分から、脱炭素社会の根源であると思われまます。

また、早くから、バイオマス産業都市構想に選定されており、脱炭素社会の実現へと動いていた自治体で、令和5年6月9日にはゼロカーボン宣言を行い一年が経ったところではあります。

再生可能エネルギー・省エネルギー設備導入への補助メニューを様々と用意をしたり、木育の導入を幼少期から行うなど、住民の脱炭素への意識の醸成を早くから行ってきていたとのことでありました。

伊達市においては令和6年5月1日に市長が伊達市「ゼロカーボンシティ」宣言を表明したところではあります。また、伊達市地球温暖化対策実行計画には、「2030年温室効果ガス46%削減、2050年温室効果ガス排出量実質ゼロを目指す。」とのことでありまます。

この伊達市地球温暖化対策実行計画のなかには脱炭素のための主な施策として、産業部門、業務その他部門、家庭部門、運輸部門、廃棄物部門、エネルギー転換部門、その他の分野、と多岐にわたって記載があります。

しかしながら、これらの実行についてはなかなか容易ではないと感じているところで
す。

このことから、伊達市「ゼロカーボンシティ」宣言における伊達市地球温暖化対策実
行計画から、以下のことについて伺います。

- (1) 2030年まで、温室効果ガス46%削減、2050年にはゼロというスケジュールであ
るが、この計画はどのようなものとなっているか
- (2) 住民、企業などの事業所その他様々な関係各所との協力、連携などは必須である
と考えるが、どういった手法をもって進めていくのか
- (3) 木質ペレットの今後について